

ユニバーサルな社会をめざして

9月17、18日に神戸市で第3回ユニバーサルデザイン全国大会が開催されました。多くのユニバーサルデザイン関係者が集まり、ユニバーサル社会のあり方について考えました。また、19日には特別プログラムとして、「建築・まちづくりユニバーサルデザインシンポジウム」も開催されました。市民活動をしていくためのヒントや手がかりになることばが、19日のシンポジウムにたくさんありましたので、みなさんに3つご紹介したいと思います。

施設建設などの計画時に、多くの方の意見を取り入れるために住民の参加を求めて会議をします。たくさんの意見を聞かなくてはなりません。が、会議に参加しない人たち、参加しても語らない人たちの声をどうしていくのか。自由に意見を言える場の保障をすると同時に、出されそれぞれ個別の意見をどのように、参加者が納得するようにまとめていくのか。相反する意見をどのように調整するかなどのコーディネータ的な役割をする人材が求められること。

他人が自分とは違う意見を持っているということを知らない人たちがいます。自分とは違う意見をもった人に出会ったときに、気がつかないうちに心の中にバリアを作っています。違った意見にどういう態度をとっていくのか。意見の違いをどのように説明していくのか。違いを尊重しながら、どのように合意していくのかということを考えること。



ユニバーサルデザインシンポジウムから

学校教育の中で答えはひとつしかないと教えられてきたこともあり、ひとつの基準にしか合わせられないことで、マイナス的な思考になりがちです。2という答えは必ずしも1+1ではなく、 $2+0=2$ 、 $(-1)+3=2$ など、方法は他にもたくさんあります。さまざまなアプローチの仕方を考えたり、アイデアを出せる人づくりが大切であること。

パネリストのお話から、自分とは違う意見を持った人に苦手意識をもち、どこか敬遠していましたが、意識して理解しようという姿勢がなくては、人と人がつながることや支え合うことなどできないと思いました。また、コーディネーターの田中直人先生がお話されていましたが、「これからの時代は新たな施設のユニバーサルデザインを考えるよりも、既存の施設をどのように多くの人に使いやすくしていくのかという技術やアイデアをもつこと」などが今後の建築の課題でもあると思いました。

すべての人にとって利用可能な製品、建物、環境づくりというアメリカ型のユニバーサルデザインから、意識づくり、人づくり、そして社会づくりへと、「日本型ユニバーサルデザイン」(表現されていた方がいらっしゃいました)に進化してきているのではないのでしょうか。おかしいと思ったことを「おかしい」と言えること。「おかしい」というその感性と意見を大切にできること。さらに、みんなで自分の問題として一緒に考えること。そして、違う意見をどのようにまとめて、みんなの意見として共有していくのか。社会のしくみにどのように反映していくのか。みんなが暮らしやすい社会を「かたち」にしていくユニバーサルデザインファシリテーター(推進役)とでもいうような存在が必要になってくるのではないかと思います。

(孫 美知)